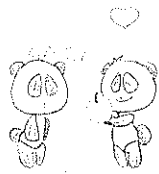


親子クイズから



島村 きよさん
(久枝西)

門田 幸子さん
(沖の土居)



島村 きよさん
(久枝西)



田中 あつ子さん
(浜改田)

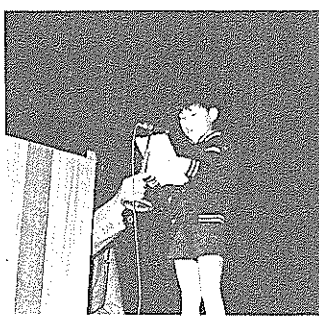


声

詩吟剣詩舞の
発会について

島村 辰彦 (大埔)

南園市の市民学級とでもいうべき中央公民館の詩吟教室ができたのが四十六年四月、野中秀鳳先生を講師に迎え、市社会教育課中央公民館の職員の方々のお世話になり、昨年度まで二カ年の長い間、詩吟の勉強に励んでまいりました。ことし五月の教室発表会には、五十数名の参加を得、小学一年生と四年生のチビッコ吟士もまじり盛況のうちに終りました。



チビッコも詩吟で大ハッスル
各教室生合同発表会で。

本年度は、剣詩舞に加え、また顧問には漢詩、吟詠にも見識の高い利南教育長、野村市会議員、武市公民館長をまねき、ご指導をいただきサークル活動としてつづけていくことになりました。

漢詩は古代中国人の最も人間のな叫びや感動を芸術的に表現したものであり、千年以上も過ぎた今日でも、われわれに強く訴えてくる迫力をもった古典文学の精華で漢民族の高い知性と豊かな情緒の結晶です。時代や民族を越えた世界の古典としても、人類のつくりだしたすばらしい文化遺産です。わが国においても、奈良朝時代に、早くも最古の詩集「懐風藻」が現われ、六十四名の日本人の作詩が収録されており、それは今から約二百年も前のことです。江戸時代中期から著しく盛んになり、末期に至っては空前絶後の漢字の隆盛を見るに至り、不朽の名作が数多く生まれ、われわれの心を強くゆさぶる名詩ばかりです。このような価値の高い漢詩を鑑賞しながら、詩の情景を心にえがき、作者の心情になつて吟ずることにより、心を豊かに純化し、精神の飢餓を救い、人間性を高める、

高の家屋の評価



昭和八年に現在の住宅一棟、そのあと納屋、乾燥場など建て増し評価額は三千万円足らずでした。ところが、昨年、子供の個室などのため三部屋のプロック建てを増築、評価額は一挙に百四十万円近くにはね上りました。

稲生・ゆき生

お答えします

家屋評価のしくみを説明しますと、従来の評価は昭和三十七年の物価水準により定めた自治省基準に基づいたものになります。しかし本市の場合、その基準によりますと、制度の改正により急激な税負担の上昇となります。そこで昭和四十年ごろの評価替えに際し、その三分の一程度の額とし、以後の新築家屋については順次引上げ昭和四十六年建築は十分の九の額で評価しました。また、老朽化による補正は一例をあげると、木造住宅は三十年経過で新築再建築価格の十分の二(これが残存価格の限度です)で計算します。今回の改正は、建築価格の上昇と建築様式の多様化により実状と合わなくなったため新基準を定め

情緒を深めるものであると思ひます。

「日々楽清吟 没我遊浄心」

情操を深め、道義心の高揚を計り、地域社会の文化発展を吟詠の根本理念として、これからも漢詩の内容を研究し、音楽的な見地から、吟詠の勉強を進めていき、広くサークル活動の輪を広げていきたいと思ひますので、気軽に中央公民館まで、参加申し込みをしてください。多数のご参加をお待ちしています。

の痛い問題に加えて、世代の断絶などの不安のある中で、文化遺産である漢詩という宝を分ち合い、若い世代も老年の方も、相互に語り合うことができる詩吟を、毎日のご多忙な一時をさき、楽しんでみませんか。

公民館の
各教室紹介

- 宗幸
 - ▼俳句サークル・第二日曜日、十三時～十七時、公文東梨
 - ▼詩吟サークル・第三日曜日、十四時～十七時、野中秀鳳
 - ▼書道教室・毎週水曜日、十八時～二十時、坂本大龍
 - ▼尺八教室・毎週月曜日、十九時～二十時、坂本峰山
 - ▼謡曲教室・毎週水曜日、十八時～二十時、白石志郎
- ▼きもの着付教室・第一日曜日、十四時～十六時、谷口靖子
- きものは家庭にあるもので間にあいます。

つくし



「ただいま。いつもの事ながら元氣一杯裏のくぐり戸を開ける音がした。いつになくニコニコとうれしそうに帰ってきた三年生になったばかりの子供の胸に、赤いカーネーションが咲いていた。」

田の田に

うより自分で買ったみたいなんもやねエ。と云いながらもなんとなく、ニコニコしている自分がおかしかった。その夕方、又子供が、ハイこれと差出した包をあけてみると、何と中には二カラットもあろうかと思われる程の白く光る指

吉谷紀代(立田)

昭和四十七年建築から適用しました。旧基準と比較すれば、木造住宅で一、六倍程度となりま

新基準によるものは、三年毎の評価替え(次は昭和五十一年度)により経過年数により損耗を計算するので、基準の改正がない限り順次安くなるはずですが、従来の基準による分については、

岩地区の運動会



珍プレー続出 / 審判頭痛の種?

五月二十日、五月晴に恵まれ第五回岩地区民運動会が、香南中学校グラウンドにおいて五百人参加のもとに盛大に開催された。この運動会は、岩地区公民館活動の一環として、地区の親睦と体力づくりを目的として五年前より田芸地帯では一番閑な五月を選び行なわれている。大会は徳橋助役出席のもと、大会宣言のあと、昨年度優勝の堀の内部落チームの優勝旗返還があり午前十時より二十二種目の競技にわたり熱戦がくりひろ

老人より保育園児までの競技であり、珍プレー続出し、審判団の岩地区消防団も判定に頭を痛める一幕もあったが、有意義の内に四時大会をこした。本年度は、第一位、包末部落チーム、第二位、堀の内チーム、三位、金地チーム、四位、福丹チームの順となった。

この原稿と写真は堀の内石丸益穂さんより寄稿されたものです。